

- 1 議長挨拶
- 2 経過報告
6月23日 第82回連携会議
7月4日 石狩市予算要望委員会
- 3 協議題1 石教研2次集会レポート作成に向けて（研究G提案） ～別紙1
協議題2 2017年度「保護者負担調査」について（事務局） ～別紙2
協議題3 管外視察について（調査研修G提案） ～別紙3
協議題4 「修学旅行経費調査」について（事務局） ～別紙4
- 4 実践交流
予算編成の提案及び関連する事務運営計画（南線小）
- 5 連絡事項
(1) 8/8夏季研修会の予定について
今年度の夏季研修会では、以下の内容を扱う予定です。
 - ① 予算要望書について
 - ② 中央研修報告
 - ③ 修学旅行経費調査
 - ④ 保護者負担調査（PFシート）
 - ⑤ 学校教育法改正関係について

＜別紙1＞ 石教研2次研究協議会レポート作成に向けて（研究G）

1 レポートの構成について

基本的に昨年度の二次研究協議会のレポートをベースに二次研究協議会以降からこれまでの活動状況を加えて作り上げる。

2 今年度(昨年10月から今年9月まで)の活動内容について

- (1) 市配分予算に係る配分調整に関する取り組み
- (2) 予算要望書の作成に関わった取り組み
- (3) 北海道大学との連携の取り組み（公費・私費負担調査）
- (4) 就学援助に関わった取り組み
 - ・手引き（クラブ活動費新設）
 - ・学用品費引き去り調査
- (5) 実践交流
昨年度：領域実践シート、今年度：各校予算編成について
- (6) その他

3 レポート作成方法

原案の作成方法について研究グループで検討し、下記の日程で作成する。

- 9月初旬 原案完成
- 9月中旬 研究G検討期間
- 9月22日（金）定例会（連携会議）全体で検討
- 25日（月）～27日（水）印刷丁合

＜別紙2＞ 2017年度「保護者負担調査」について（事務局）

1. 保護者負担調査の意義

- (1) 各校の現状を知ることによって自校の保護者負担軽減などのとりくみに活かすことができる。
- (2) 学校財政確立のための活用（ひいては保護者負担軽減につながる）。

2. 調査の観点

- (1) 保護者負担の状況を各校比較検討することにより、保護者負担軽減策のヒントを探る。
- (2) 学校徴収金と公費財政の関係を比較検討する資料として活用する。
- (3) 予算要望書の参考資料として活用する。

[※第2回連携会議（09/6/16）で論点整理を行っているので参考にしてください。](#)

↑ここをクリック

3. 調査項目等について

今年度はPFシートを使って調査します。

◆PFシートについて（以下全道協議会ウェブサイトより転載）

「PFシート」は、職務検討委員会が、学校の「学校財政財務活動・保護者負担」の実態をとらえ返す方法の一例として作成し、2016年9月8日～9日に開催された北海道公立小中学校事務研究大会・第5分科会において提起したものです。

(1) PFシートとは？

学校で取り扱っている「私費」を入力することから、学校の「保護者負担」の実態把握と、日常「学校財政財務活動」のふり返りをすすめるために作成しました。

(2) PFシートを入力することによって・・・

- ①学校の保護者負担を詳細に把握することができます。入力する作業をとおして負担に感じる面もあるかもしれませんが、その過程から得られる「気づき」が、学校事務職員による次の活動をつくりあげます。

- ②学校の保護者負担の実態を、A3 サイズの用紙1枚に整理でき、全体像が見えてきます。
 - ③学校の「PF シート」を交流することによって、活用の幅が自由に広がります。
- (3) PF シート・入力にあたって
- ＜省 略＞
4. 具体的作業は次のとおりです。
- ・PF シートの記載の仕方について、夏季研でプレゼンを行います。
 - ・各校のシート提出期日は夏季研終了後に連絡します。(予定は8月いっぱいです)

＜別紙3＞ 管外視察について（調査研修G提案）

◇視察研修について

視察研修場所として次の2カ所を提案します。皆様のご意見をお聞かせください。

①札幌市（清田区）の定例会への参加

9月26日（火） 9：00～11：00

定例会での実務交流について、どのような形で行っているのか、内容等について視察を行う。

定例会の主催が札幌市教育委員会になっているため、石狩市教育委員会から札幌市教育委員会に定例会への参加が可能か確認してもらう必要があるようです。

②札幌 ユビキタス協創広場 U-cala の見学

9月8日（金）または9月29日（金） 14：00～16：30

教育用デジタルコンテンツを学校に配信する EduMall（エデュモール）、ICT 機器について説明をしてもらう。

上記日時での見学が可能かこれから確認します。

＜別紙4＞ 「修学旅行経費調査」について（事務局）

1. 調査の目的

修学旅行費用に関わる調査については、2011年6月（公開12月）に、実施しましたがその際の観点は①児童生徒集金額と、業者支払額に差がある場合は、その差額がどのように使われているか、引き続き調査する必要があること、②引率者の集金額（校内的にいくら集金しているか）が不明であったこと、③就学援助費給付額の分析が必要であること、等が設定されました。

その調査から6年が経過しており、この間の大きな変化としてはバス運行の規制強化に伴う料金の高騰がありました。このような変化を踏まえ、今回調査の目的を以下のように設定します。

- ① 6年前の調査に比べ、旅行費用がどのように変化しているか。
- ② 就学援助上限額と実際に係っている経費にどのような差異があるか。
- ③ 就学援助費の上限額と実際に係っている対象経費の差はどうなっているか。
- ④ 隠れ保護者負担の実態はどうなっているか。

2. 調査方法

別紙調査用紙を全体で確認した後、各校に送付、回答願います。

3. 調査期日等

7月28日必着 提出先 連携会議事務局次長（樽川中：三浦）

なお、結果については8/8日夏季研修会で交流します。